

★非同盟運動（NAM）とナゴルノ・カラバフ問題＝アゼルバイジャン共和国

非同盟運動（NAM）議長国のアゼルバイジャン共和国は、ナゴルノ・カラバフ問題についての非同盟運動関連文書を外務省のHPで以下のように説明している。

2012年5月9～10日、非同盟運動調整ビューローの閣僚会議がエジプトのシャルムエルシェイクで開催され、会議の最終文書のパラグラフの中で、NAM加盟国はアルメニアとアゼルバイジャンの間の紛争を、国家の領土保全の尊重、領土保全に対する武力の不使用、および国際的に認められた国境に関する原則に基づいて解決することに支持を表明した。

2012年8月30日から31日にイランのテヘランで開催された第16回NAM首脳会議は、採択した最終文書の第391項で、すべてのNAM加盟国は決議への支持を表明した。「領土の完全性、主権および国際的に認められたアゼルバイジャン共和国の国境内」での紛争解決への支持を表明した。

2014年5月28～29日、アルジェリアで開催されたNAMの第17回閣僚会議は最終文書で、加盟国は、関連する国連安保理決議にもかかわらず、アルメニアとアゼルバイジャンの間の未解決の紛争について遺憾の意を表明し、アゼルバイジャン共和国の領土保全の内での紛争解決に支持を表明した。

2018年4月4～6日にバクーで開催されたNAM中期閣僚会議の最終文書は、国連安保理決議にもかかわらず、アルメニアとアゼルバイジャンの間の未解決の紛争に対する遺憾の意を表明し、アゼルバイジャン共和国の領土の完全性の内での紛争解決への支持を表明した。

2019年7月18～21日、ベネズエラのカラカスで非同盟運動調整ビューローの閣僚会議が開催され、アゼルバイジャン共和国外務省の代表団が出席した。カラカス最終文書は、アルメニアとアゼルバイジャンの紛争に関連するそれまでの文書を反映した代表団の立場を繰り返した。

2019年10月25～26日に開催されたバクー首脳会議で各国首脳は、国連安保理決議（S / RES / 822、S / RES / 853、S / RES / 874、S / RES / 884）にもかかわらずアルメニアとアゼルバイジャンの間の紛争は未解決のままであり、国際的および地域的な平和と安全を危険にさらし続けていることに懸念を表明。

国連憲章に記されている武力の不使用の原則の重要性を再確認し、両当事者にたいし領土保全、主権および国際的に認められたアゼルバイジャン共和国の国境内での紛争の交渉による解決を引き続き追求するよう促した。これに関連して、首脳たちは力による領土の取得は認められないことを強調し、アゼルバイジャン共和国の領土の占領に起因する状況を合法であると認めたり、これらの地域での経済活動を含め支援や援助を提供してその状況を維持することをしてはならないことを再確認した。

2020 年 4 月 4 日、NAM調整ビューロは、アゼルバイジャン共和国の占領地で開催されたいわゆる「選挙」についてコミュニケを採択し、このなかで力による領土の取得は容認できないことを強調し、アゼルバイジャン共和国の領土の占領に起因する状況を合法であると認めてはならないことを再確認した。これに関連してNAM諸国は、2020 年 3 月 31 日にアゼルバイジャン共和国の占領下のナゴルノ・カラバフ地域で行われたいわゆる「大統領選挙および議会選挙」を承認せず、違法とみなしている。調整ビューローは、NAM バクーサミットの成果文書の第 662 項に沿って、国際的に認められた国境内でのアゼルバイジャン共和国の領土保全と主権、および国連安全保障理事会決議（S / RES / 822、S / RES / 853、S / RES / 874、S / RES / 884）に基づくアルメニアとアゼルバイジャン間の紛争の解決に対する支持を再び表明している。

（アゼルバイジャン共和国外務省のHPから）（翻訳 田中靖宏）